

学校教育目標	「自ら学び、共に育つ自立した子どもの育成 ●主体的に学ぶ子ども ●思いやりのある子ども ●たくましい子ども」	令和6年度重点目標	「自己肯定感を高め、主体的に学びに向かう児童を育成する。」
「確かな学び」の現状「確かな学び」の現状 ○ 令和5年度全国学力・学習状況調査結果では、国語において全国・大阪府の平均正答率を上回ったが、算数において1％下回った。同年の「すすくウオッチ」(大阪府学力調査)では、国語・理科において大阪府の平均正答率を2％・5％上回ったが、算数においては2％下回った。算数では、観点別でみると「知識・技能」に課題があり、大阪府平均を3％下回っているが、前年度は8％下回っていたので、改善傾向にある。 ○ 令和5年度CBTIによる堺市学習・生活状況調査結果によると「算数が好き」「算数の授業内容はよく分かる」と答えた児童の割合は、3年生で(79％・84％)、4年生で(86％・92％)、5年生で(74％・92％)となっており、昨年比では向上している。本年度も校内研修等をととして「どの子もわかる・できる」授業づくりに取り組む。 ○ 本年度、特別支援学級には30名が在籍しており、通常の学級では必要に応じて合理的配慮を行っている。また、学校全体で授業のユニバーサルデザイン化を推進し、支援が必要な児童を含むすべての児童が困らない学校(教室)をめざしている。2学期には通級教室「はるみルーム」を開設した。		「豊かな心・健やかな体」の現状「豊かな心・健やかな体」の現状 ○令和5年度CBTIによる堺市学習・生活状況調査結果では「自分には、良いところがある」と肯定的に答えた児童の割合は、3年生95％、4年生96％、5年生94％であった。また、「人が困っているとき、自分にできることを考える」と肯定的に答えた児童の割合は、3年生90％、4年生96％、5年生97％となり、年々、向上している。 ○令和5年度新体力テストにおいて、男女ともに、多くの項目で堺市平均記録を上回っているが、男子は握力が低い傾向がある。女子も、握力・上体起こしが低い傾向にある。堺市平均値を上回る項目が多いので、下回る項目においても計画的に改善を図っていく。 ○令和5年度学校評価アンケート(全児童)において、「体育の授業で体を動かすのが楽しい」と肯定的に答えた児童の割合91％、「体育の授業で運動が上手になった」と肯定的に答えた児童の割合は、93％であった。また、「はるみ3つのやくそくを守れている」と肯定的に答えた児童の割合は、90％であった。	

	中項目	具体目標	具体的な取組	判断基準	評価方法	評価時期	進捗確認(◎○△) (～11月)		達成状況(年度末)			
			●重点とする取組 ★中学校区での取組	(評価のものさし)					自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	授業改善	授業のユニバーサルデザイン化の視点から 「どの子もわかる、できる」授業づくり	●静謐な学習環境を整え、「分かりやすく教えて、練習させる授業」「子どもに考えさせて、考え方を学び合う授業」に取り組む。 ○ICT 機器(タブレットやデジタル教科書など)を活用した分かりやすい授業づくりに 取り組む。	学校評価アンケート(児童)結果 「授業はわかりやすく、勉強ができるようになった。」「タブレットを使って勉強することができる。」 2 項目とも90%以上の肯定的評価で A 1 項目のみ90%以上の肯定的評価で B 2 項目とも90%未満の肯定的評価で C	・学校評価アンケート(児童)	2 学期末	◎	・タブレットの活用方法を共有しながら進めている。	◎	●「はるみっこの教室」を掲示し、学習規律を守り、静謐な学習環境のもと、「どの子もわかる、できる」授業に取り組んだ。児童アンケート結果「授業はわかりやすく、勉強ができるようになった」の項目が94％であった。 ●ICT 機器を活用して学習の定着を図った。「タブレットを使って勉強することができる。」の項目が94％であった。	◎	視覚支援や UD が充実し、掲示物やデジタル機器の活用もあり、児童が落ち着いて静謐な環境で学習している。児童アンケートからも、基礎学力の向上が期待される。
		基礎学力の向上	○基礎的な知識や技能を活かしながら、学びを深めていくための課題を設定し、確かな学力の向上を図る。	単元テストの観点到達率が、国算ともに、85%以上の学年が[4 学年以上…A] [2～3 学年…B] [1 学年…C] 校内学力テストの正答率が、国算ともに、80%以上の学年が[4 学年以上…A] [2～3 学年…B] [1 学年…C] 2 項目とも観点到達率・正答率が A で A 1 項目のみ観点到達率・正答率が A で B 2 項目とも観点到達率・正答率が B または C で C	・単元テストの観点到達率 ・校内学力テストの正答率	年度末	◎	・計画通り進めている。	○	●単元テストの観点到達率が85%の学年は、2学年だった。 ●校内学力テストの正答率が国算ともに80%の学年は、3学年だった。	◎	●学力の基礎となる漢字や計算など、習得まで再テストや復習を行い、学力が向上するよう努力していることがわかる。また、学んだことを教室に掲示して残すことで、復習や意欲を持つことができていると感じた。
			●副教材等を用いて、「音読・暗唱」「視写(聴写)」など「読む活動」「書く活動」を日常的・継続的に取り組むことで文章の内容を読み取る力、漢字を書く力等、基礎学力を向上させる。 ○全教職員が公開授業を行い、授業改善に努める。	・「暗唱テスト」を行い、合格した児童の数で評価する。 1・2 年 5 個以上、3・4 年 4 個以上、5・6 年 3 個以上の児童が60%以上で A、40%以上で B、40%未満で C ・「視写テスト」を行い、目標視写字数に到達した児童の数で評価する。 1 年生 100 字、2 年生 150 字、3 年生 200 字、4 年生 250 字、5 年生 300 字の児童が60%以上で A、40%以上で B、40%未満で C ・公開授業を実施する。	・暗唱テストの到達率 ・視写テストの到達率 ・公開授業の実施	年度末	◎	・暗唱テストや視写テストを各学年、計画的に進めている。 ・2 学期中に全職員が公開授業を計画している。	◎	●暗唱テストの合格数が、1・2 年 5 個以上、3・4 年 4 個以上、5・6 年 3 個以上の児童が89%という結果であった。 ●視写のテストの合格率が、1 年生 100 字、2 年生 150 字、3 年生 200 字、4 年生 250 字、5 年生 300 字の児童が83％であった。 ●教員が公開授業を実施した。		●学力にも個人差があるので、少人数指導などができる環境があればなお良いと思った。令和6年度は、教職員に欠員がある限られた人員の中で、努力していることがわかった。
	特別支援教育	どの子もいきいきと活動できるように、児童ひとりひとりの特性を理解した教育	○帝塚山大学院サポーターなどの効果的な活用	教職員アンケート「帝塚山大学院大学院との合同カンファレンスは有益であり、サポーターとは連携ができている」の項目で、肯定的評価が90%以上でA、60%以上でB、60%未満でC	・学校評価アンケート(教職員) ・サポーターの記録 ・カンファレンスの感想 ・児童の変容	2 学期末	◎	・計画通り進めている。	○	子どもの変容について情報共有し、充実した連携をとることができた。	◎	●支援学級や通級教室で、児童に応じた指導・支援を実践していることがわかった。人員の充実のためにもサポーターのさらなる活用を期待している。 ●帝塚山大学院大学院との連携事業で、研修(カンファレンス)を通して研鑽を深め、児童理解に努められていることがわかった。
			○子ども支援委員会の活用 ○教職員と保護者との連携を深め、児童理解を図る	教職員アンケート「子ども支援委員会を活用し、教職員と保護者との連携を深め、児童理解を図っている」の項目で、肯定的評価が90%以上でA、60%以上でB、60%未満でC	・学校評価アンケート(教職員) ・記録の活用状況 ・児童の変容	2学期末	◎	・計画通り進めている。	◎	アンケート「子ども支援委員会を活用して保護者との連携を深めるとともに児童理解を図っている」の項目が90％であった。教育相談を通じて、実態に応じた支援を行うことができた。		
			●研修や提案授業を行い、授業のユニバーサルデザイン化を推進する ★個別の支援の方法や合理的配慮について研鑽を深める	児童アンケート「授業はわかりやすく、勉強ができるようになっている」の項目と教職員アンケート「授業のユニバーサルデザイン化」の推進をめざし、研修や研究授業を行っている」の項目で肯定的評価が、両方が90%以上でA、一方が90%以上でB、両方とも90%未満でC	・学校評価アンケート(児童・教職員) ・研修会の実施	2学期末	◎	・計画通り進めている。	○	児童アンケート「授業はわかりやすく、勉強ができるようになっている」の項目と教職員アンケート「授業のユニバーサルデザイン化」の推進をめざし、研修や研究授業を行っている」の項目で肯定的評価が、両方が90%以上であった。 児童の発達段階に応じた個別の支援を実践することができた。		

		具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)		達成状況(年度末)			
									自己評価		学校関係者評価	
豊かな心 健やかな体	人権 感 覚 の 育 成	人権尊重を基礎とした教育を充実させ、豊かな人間性を育成する。	●自分及び他人のよい所を探す活動や、たてわり活動、授業での成功体験をととして、児童の自己肯定感や自己有用感を高める。	児童アンケート「学校へ行くのが楽しい」「授業はわかりやすく、勉強ができるようになっている」「先生は、私たちの話を聞き、困っている時は助けてくれる」「先生は、私をほめたり、はげましたりしてくれる」の項目で肯定的評価が90%以上でA、60%以上でB、60%未満でC	・学校評価アンケート(児童)	2学期末	◎	・各学年、計画通り進めている。	◎	児童アンケートの結果に基づき、「学校へ行くのが楽しい」では 85%、「授業はわかりやすく、勉強ができるようになっている」では 94%、「先生は、私たちの話を聞き、困っているときは助けてくれる」では 97%、「先生は、私をほめたり、はげましたりしてくれる」では 94%の肯定的評価を得た。これらの結果から、児童の自己肯定感や自己有用感を高める活動が効果的であったと評価する。(A) 来年度も学期ごとに取り組んだ活動を共有できる場を設定する。	◎	●児童の自己肯定感や人権意識が高いことがわかる。地域でも、異学年で仲良くしている姿を見かけている。心身ともに健やかに過ごせる環境を整えていることがわかる。
			●仲間づくりの活動(百人一首など)を行い、どの子も居場所のあるクラスづくりを行う。 ○たてわり活動を通して、異学年との 仲間づくりを行う。	児童アンケートの「一緒に遊んだり、話したりする友だちがいる」「仲間づくりの活動」や「たてわり活動」は楽しい。」の項目で肯定的評価が90%以上でA、60%以上でB、60%未満でC	・学校評価アンケート(児童)	2学期末	◎	各学年、仲間づくりの活動時間を取って計画通り進めている。	◎	児童アンケートの結果に基づき、「一緒に遊んだり、話したりする友だちがいる」では 96%、「仲間づくりの活動」や「たてわり活動は楽しい」では 94%の肯定的評価を得た。これらの結果から、仲間づくりの活動やたてわり活動が効果的であったと評価する。(A) 来年度も各クラスの取り組みを共有したり、百人一首を推進できるように計画したりしていく。		●たてわり活動により、高学年のリーダーシップやコミュニケーション力、考える力が身についていると感じている。
		規則正しい学校生活の確立 静謐な学習環境 いじめ防止	●はるみ3つの約束「あいさつ」「廊下を歩く」「チャイム着席」を定着させる。 (各委員会と協力し、声かけやチェックを続ける)(朝礼を利用する。) ●いじめはどんな理由があってもしてはいけないことだと理解できるように指導する。	児童アンケート「はるみ3つのやくそくができている」の項目で肯定的評価が90%以上でA、60%以上でB、60%未満でC 児童アンケート「命をまもることや、いじめをしてはいけないことを先生に教えてもらっている」の項目で肯定的評価が100%でA、70%以上でB、70%未満でC	・学校評価アンケート(児童) ・いじめアンケート(学期に1回)	年度末	◎	・計画通り進めている。	○	児童アンケート「はるみ3つのやくそくができている」の項目で肯定的評価が80%だった。朝礼や委員会活動を通して継続して指導をしてきているが廊下歩行に課題が残るため、児童に見える形で啓発を行っていく。(B) ・児童アンケート「命をまもることや、いじめをしてはいけないことを先生に教えてもらっている」の項目で肯定的評価が、98%であった。今後も、道徳や学活の時間を通していじめ防止の授業を行っていきたい。(B)	◎	●「命の大切さやいじめがいけないことを教えてもらっている」が高評価であるのは、指導が充実し意識付けができていことだと思う。 ●「はるみ3つの約束」がわかりやすい場所に掲示されていて、重点的に取り組んでいることが伝わってきた。
	体力 向 上 と 食 育	体力の向上と基本的生活習慣、規則正しい学校生活の確立	○運動好きな児童を増やし、日常的に運動する機会を増やす。 ○いろいろな運動ができるようにする。	児童アンケート「体育の授業で体を動かすのが楽しい」「体育の授業で運動が上手になった」の2項目で肯定的評価が2項目とも90%以上でA、1項目90%以上でB、2項目とも90%未満でC 新体力テストの各学年の結果が堺市平均の記録を超えている割合が60%以上でA、40%以上でB、40%未満でC	・学校評価アンケート(児童) ・新体力テスト	2 学期末 実施時	○	・新体力テストの結果が、課題のある結果であったため、年度末まで、体育の授業等で、体力を高める指導が必要である。	○	●新体力テストでは、各学年の結果が約 46%の項目しか堺市の平均記録を超えることができなかった。握力・上体おこし・反復横跳び・ソフトボール投げの項目において、多くの学年が、堺市平均の記録を超えることができなかったため、今後の課題としてあげられる。(B)	○	●体育の授業以外で体を動かすことをどの程度行っているのか気になった。 ●食育に関して、給食に世界のメニューを取り入れるなど、様々な工夫をしていることがわかった。 ●食育(朝食指導も含む)は、学校の啓発だけではなく家庭での取り組みも必要になるので、学校で啓発していることは有効的だと思う。
			○健康で安全な生活を送るため、けがの防止に努めるように児童に啓発する	健康と安全に関する児童アンケート(学期ごとに実施)の結果で肯定的回答が90%以上でA、60%以上でB、60%未満でC	・児童アンケート(学期に1回)	年度末	◎	・計画通り進めている。	○	・けがの実態を職員間で共通理解し、指導を呼び掛けることができた。また、児童の保健委員会活動を通して、「廊下の安全な歩行」「手洗い」「眠育」の啓発を行うことができた。(B)		
			○食育の授業を通して、児童が自らの食生活について考える力を育成する。 ○日々の給食指導に取り組む。 ○食育だより、HPなどで啓発する。	授業後の児童アンケートで学習内容について「よくわかった」が、80%以上で A、60%以上で B、60%未満で C 堺市学習・生活状況調査で肯定的評価が、90%以上で A、60%以上で B、60%未満で C	・児童アンケート(授業後) ・CBTによる堺市学習、生活状況調査 ・食育だよりやHPの記録	年度末	○	・4、5年生で朝食に関する授業を実施。 ・毎月の食育だよりや、HPなどを使用した啓発。 ・日々の給食指導	◎	●4年生の授業後アンケートで「どんな朝ごはんを食べたらいいのかわかった」が100%、「毎日朝ごはんを食べることが大切だと思う」が91.8%であった。 ●給食のようすをホームページに掲載したり、食材のクイズや展示を通して児童が食材に興味を持つようになった。6月と11月に実施した残食調査の結果、残食率が下がっていた。 ●給食当番が身だしなみを整える意識が向上した。		
地域 協 働	信頼される学校	学校協議会を軸に、コミュニティスクールを推進し、「地域に開かれた学校づくり」を行う	○地域の関係機関との連携を密にし、様々な機関や異年齢との交流を推進し社会参画力をさらに向上させる。	保護者アンケート「学校は、地域(自治会・近隣の大学・高校・中学、施設など)と連携した教育活動や体験的学習を多く取り入れ、子どもの豊かな心を育てている」の項目で肯定的評価が90%以上でA、60%以上でB、60%未満でC	・学校評価アンケート(保護者)	2 学期末	◎	・計画通り進めている。	◎	保護者アンケート「学校は、地域(自治会・近隣の大学・高校・中学、施設など)と連携した教育活動や体験的学習を多く取り入れ、子どもの豊かな心を育てている」の項目で肯定的評価が96.7%であった。	◎	●地域連携が充実して、地域への感心を持つことや社会性を身につける機会にもなるので、今後も連携を充実してほしい。地域行事(はるみっ子喫茶)への参加児童も年々充実している。 ●デジタル・アナログを効果的に使い分けて、積極的に情報発信していると感じている。
			○校報、学校ホームページ等で、学校の教育活動について地域に公開する。	保護者アンケート「学校は、教育方針や学校生活の予定等について、校報や学年だより、「tetoru」(テトル)や学校ホームページでわかりやすく伝えている」の項目で肯定的回答が90%以上でA、60%以上でB、60%未満でC	・学校評価アンケート(保護者)	2学期末	◎	・計画通り進めている。	◎	保護者アンケート「学校は、教育方針や学校生活の予定等について、校報や学年だより、「tetoru」(テトル)や学校ホームページでわかりやすく伝えている」の項目で肯定的回答が95.1%であった。		
校長より(年度末) 令和4年度より、重点目標「自己肯定感を高め、主体的に学びに向かう児童を育成する。」にもとづき「どの子もわかる・できる授業づくり」「仲間づくり活動」「予防的な生徒指導」などに取り組めました。今回、頂いたアンケート結果と評価をもとに成果と課題を検証し、次年度以降、新たな視点で取り組んでいきたいと考えています。よろしくをお願いします。								学校関係者評価から(年度末) 学校は限られた人員で子どもたちのためにより良い環境を整えるべく努力していることがよくわかりました。また、保育の現場では、学校協議会が再開したことで学校との対話が増え、小学校の様子や卒園後の子どもの育ちを知ることができ、より就学を意識するようになりました。				